

群 教 セ	E03 - 03
	平17.227集

# 生徒の志願理由を明確化するための 進路指導の工夫

— 高校理解を深める情報処理活動を通して —

特別研修員 小野 賢 (伊勢崎市立宮郷中学校)

## 《研究の概要》

本研究は、中学3年生を対象に、進路選択において生徒の志願理由を明確化することを旨とするものである。具体的には、「高校生の声」と称して現役の高校生の意見や体験などをアンケート形式で収集し、整理し、活用するという一連の情報処理活動を通して、希望する高校の特徴や学科の学習内容などについての理解を深め、広げることで、生徒の志願理由を明確化することができることを実践を通して明らかにしようとしたものである。

**キーワード** 【進路指導 高校選択 高校理解 志願理由 情報処理活動】

## I 主題設定の理由

ここ数年、進路指導にかかわる問題点として、自分の意思で主体的に進路選択することができない中学生が増えていることが指摘されている。明確な目的をもたずに、周囲に流された安易な選択をしたり、高校の特色や学科の学習内容を十分に理解せずに進学したりする結果として、高校では中退者が増加している。そこで、中学校における進路指導では、自らの意思と責任においてよりよい進路を決定していこうとする能力や態度を育成していくことが大切であると考えた。そのためには、個性や興味・関心などについて自己理解を進めると同時に、職業や上級学校への理解を深めていく必要がある。

本学級の生徒37名（中学3年生）において、4月に行った進路希望調査の結果では、全員が高校進学を希望していた。しかし、明確な理由にもとづいて希望している生徒は少なく、多くの生徒は具体的に行きたい高校が決まっていなかったり、ただなんとなく高校進学を希望していたり、といった状況であった。中には、将来の希望はもっているものの、希望をかなえるためにはどの高校へ進学したらよいかかわからないといった生徒や、普通科以外にはどんな学科がありどんなことを勉強するのかかわからないといった生徒も多く見られた。全体として本学級の生徒は高校についての情報が不足しており、高校の特色や学科の学習内容について十分な理解ができていないことがわかつ

た。

そこで、進路選択を目前に控えた中学3年生の進路指導の場面において、主体的に高校情報を収集、整理、活用する活動を通して、生徒の高校理解を深めさせていきたいと考えた。具体的にはパンフレットやwebページ、1日体験入学などによる通常の高校調べに加えて、実際にその高校、その学科で学んでいる高校生に対するアンケートを実施し、それらの情報処理活動を行っていく。生徒は、現役の高校生の意見や考え、経験などのいわゆる「高校生の声」を通じて、これまで以上に高校や学科についての理解を深め、広げることが可能となり、志願理由を明確化することができるのではないかと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

自分で設定した高校選択の基準に合わせて必要となる高校情報を高校生から収集し、その情報を整理し活用する活動を通して、生徒は高校理解が深まり、志願理由を明確化することができるようになることを実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

1 学級活動「高校選択の基準をつくろう」において、パンフレットやwebページ、体験入学を通して得た高校情報をもとに、適切な高校選択のために必要な条件を話し合い、条件に順位付けをす

ることによって、高校選択の基準を明確にすることができるであろう。

2 学級活動「高校生の声に学ぼう1」において、高校選択の基準に合わせて高校や学科についての理解を進めるためには、その高校に在学する高校生からどのような情報を得ればよいかを考えさせることで、希望する高校についてより詳しく情報収集しようとする意欲が高まるであろう。

3 学級活動「高校生の声に学ぼう2」において、高校生から直接収集した情報を、高校選択の基準をもとに選択し、整理することによって、希望する高校の特色や学科の学習内容についての理解をより深めることができるであろう。

4 学級活動「最終的な進路選択に向けて」において、これまでに整理した高校情報を比較・検討することによって、より深められた高校理解にもとづいて志願理由を明確化することができるようになるであろう。

#### IV 研究の内容

##### 1 基本的な考え方

###### (1) 志願理由を明確化することについて

志願理由を明確化するという事は、単にその高校に進学する目的をはっきりするという事だけでなく、正しい自己理解や深められた高校理解にもとづいた志願理由をもつということである。したがって、志願理由を明確化するためには、自分の進路は自分で主体的に考え決定していくこととする意欲を高めることや、将来の夢や希望、適性や能力などについての自己理解を進めること、上級学校についての特色や内容についての理解を深めること、などの働きかけが考えられる。その中でも、上級学校への理解を深めさせていくことが、生徒の志願理由を明確化するために効果的であると考えた。対象とするクラスの生徒全員が当面の進路先として高校への進学を希望しているため、本研究においては高校理解を深めるための手立てを中心に実践を進めていくものとする。

###### (2) 高校理解を深めるための手立てについて

高校の特色や学科の学習内容についての理解を深めるため方法としては、通常の進路指導におい

て行われているパンフレットやwebページを利用する調べ学習や、それぞれの高校が主催する1日体験入学やオープンスクールなどが効果的であることはいうまでもない。しかし、それらから得られる情報だけでは、高校や学科について十分に理解できるとはいえない。特に、普通科以外の専門学科や新設された学科などの特徴や学習内容を正しく理解することは、生徒にとってはもちろんのこと、指導する教師側からみても難しいことである。そこに一方的な思いこみや誤解が生じる可能性もある。そこで、実際にその高校、その学科で学んでいる高校生の意見や考え、体験などを「高校生の声」として高校理解のために活用していく。生の「高校生の声」に直接触れることは、パンフレットや体験入学などには表れない、高校生の視点でとらえた日常の高校生活や授業の様子などの情報を得ることができ、生徒の高校理解をより深めたり広げたりする上で、有効な手段であると考えられる。

###### (3) アンケートを利用した情報処理活動について

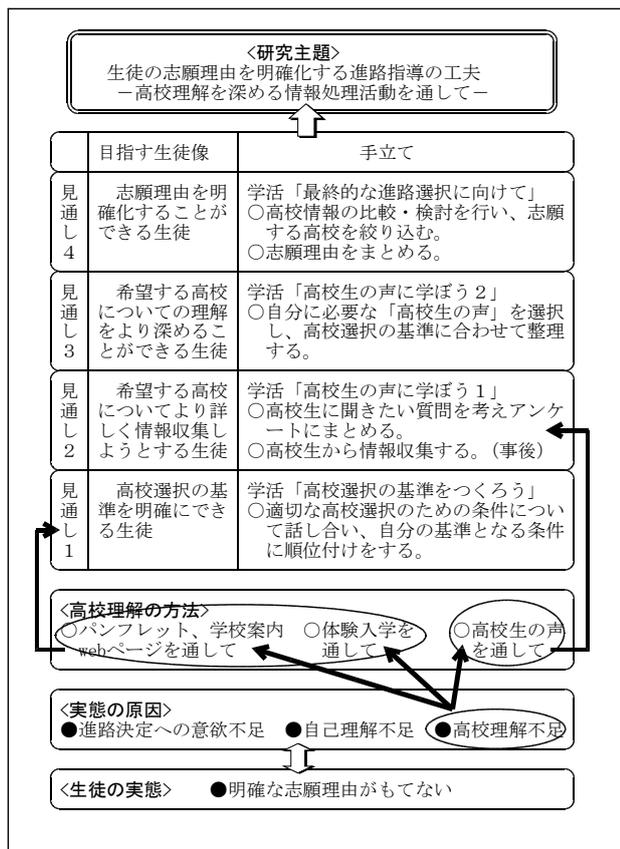
本研究におけるアンケートを利用した情報処理活動は、情報収集の事前準備をすること、情報を収集すること、情報を整理すること、情報を活用することの4つの段階を追って進めていくものとする。その際、アンケート内容を考えるという活動から、アンケートの依頼や回収、整理、考察、活用まで、できるだけ生徒中心の活動となるように、学級活動の時間を利用し進めていきたいと考えた。

###### (4) 「高校生の声」について

アンケート調査は、本校の卒業生を対象に実施し、生の「高校生の声」を収集していく。自分達の先輩でもある高校生の意見や考え、体験は中学3年生の生徒にとっては大変身近で影響力のあるものであり、高校理解を深め、広げていくには貴重な情報源になりうると考える。しかし、その意見や考えは、高校生一人一人の見方や感じ方、とらえ方の違いに左右される部分も大きく、情報の扱い次第では正しい高校理解につながらない恐れもあるため、情報の扱い方には十分留意する必要があると考えられる。情報収集の段階では、少数意見に流されないために、一つの高校や学科についての情報をできるだけ多く収集することや、情報活用の段階では、あらかじめ設定した高校選択の基準に合わせて、自分にとって必要な情報や価値ある情報を取捨選択することなど、学級活動の中

で十分に指導した。

### (5) 全体構想図



様子」「体験入学の印象」「通学方法/時間」の10の観点ごとにワークシート①(資料1)に整理する活動を行った。さらに、「学力などの合格難易度」「保護者の考え」の2つの観点についてもまとめた。その後、この観点を参考にして自分の希望や適性、能力に合った適切な高校選択をするためにどんな条件が必要であるかをクラス全体で話し合い、自分が高校選択の条件として重視したい観点を5段階に順位付けする活動を行った。

### 資料1:ワークシート①

**希望校データボックス**

※順位の欄には、高校選択の条件として重視する項目に、優先順位1～5の番号を記入する。

観 点	順位	第一希望	第二希望
①学校名/学科名			
②校風・教育方針			
③学習内容			
④取得できる資格			
⑤卒業後の進路			

## 2 実践の概要

考察に当たっては、授業中の活動の様子やワークシートの記述内容、授業後の感想などの分析を通して学級全体及び抽出生徒A子の変容をとらえていく。

A子は将来、事務系の仕事に就きたいという希望をもっている。4月の進路希望調査の段階では、第一希望として「将来役に立ちそうだから」という理由でB商業高校、第二希望として「家が近いから」という理由でC普通高校を考えていた。この二校のどちらにするかを決定づけるはっきりとした理由は、この時点ではもっていなかった。

(1) 適切な高校選択のために必要な条件を話し合い、条件に順位付けをすることによって、高校選択の基準が明確になったか。(見通し1)

### ア 実践の概要

学級活動「高校選択の基準をつくろう」では、第一、第二希望とする高校について、パンフレットやwebページ、1日体験入学などを通して収集してきた情報を、「校風・教育方針」「学習内容」「取得できる資格」「卒業後の進路」「施設・設備」「部活動・生徒会活動」「学校生活や先輩の

## イ 結果と考察

4月に行った進路希望調査の結果では、「将来の職業が決まってないからとりあえず普通科」とか、「雰囲気良さそうだから〇〇校」といった具体性に欠けた進学理由をあげた生徒が多く見られた。これらの生徒は何を重視して高校を選択していくかという基準が明確でなかったといえる。結局、自分の希望や適性と高校の特色や学科の学習内容を関連づけて進学理由をあげることができた生徒は12人にすぎなかった。

今回の実践の「適切な進路選択をするにはどんな観点を重視したらよいか」という話し合いでは、「その高校や学科の学習内容」、「卒業後の進路状況」を重視して高校を選択していくことが大切であるといった意見が多く出された。具体的には、高校選択の基準として「学習内容」を重視すると考えた生徒が21人、「卒業後の進路」を重視すると考えた生徒が18人であった。生徒が基準として重視するとあげた観点は資料2の通りである。(順位付けで上位3番までに入れた生徒の人数で比較)

A子は重視する観点として、「学習内容」、「取得できる資格」、「卒業後の進路」をあげた。授業後には、「今まで何となく高校を選んでいただけ、もっとしっかり考えるようにしたい」、「自分の希望にあった勉強ができる高校を選ぶように

資料2: 高校選択の基準

- ①学習内容……21人
- ②卒業後の進路状況…18人
- ③部活動・生徒会…11人
- ④取得できる資格…7人
- ⑤通学距離/時間…6人
- ⑤保護者の考え……6人
- ⑤施設・設備……6人
- ⑧学校名/学科名…4人
- ⑧校風・教育方針…4人
- ⑩学校生活の様子…3人
- ⑪体験入学での印象…1人

したい」という感想を残した。これまで曖昧な理由で希望していた高校も、主体的に選択するための基準をもって考えようとするようになってきた。

以上のことから、ワークシート①を通しての話し合い活動や、高校選択の条件に順位付けをした活動は、高校や進路に対する自分の考えを整理し直すことにつながり、生徒の高校選択の基準が明確になったといえる。

(2) 高校生への質問内容を考えることによって、希望する高校についてより詳しく情報収集しようとする意欲が高まったか。(見通し2)

ア 実践の概要

学級活動「高校生の声に学ぼう1」では、最初に、これまでの高校情報と自分で設定した高校選択の基準をもとに、「もっと詳しく知りたい情報」、「本当かどうか確かめたい情報」、「新たに知りたい情報」など、高校理解をより深め、広げるために高校生に聞いてみたい内容を考える活動を行った。次に、個人の考えをもとに学級全体で意見交換し、質問項目を絞り込み、アンケートを作成した。対象とする高校は、生徒の希望が多い伊勢崎地区を中心とした20校の高校とした。生徒の兄弟や部活の先輩などの知り合いを中心に協力してもらい、対象となる高校生が少ない場合には、教師から卒業生に直接依頼することとした。最終的にアンケートを配布した高校生は約140人となった。

イ 結果と考察

生徒はこれまで漠然ととらえていたことや、あまり気にかけていなかったことについてもより詳しく知りたいと希望するようになり、具体的な質問内容を考えることができた。意見交換の場面でも活発な発言が見られ、パンフレットや体験入学からでは知ることができない情報や確認できない

情報について質問するなど、希望する高校への理解を深めたいという意見が多く出された。生徒があげた主な質問内容は資料3の通りである。

資料3: 具体的な質問内容

- <学習内容等について>
  - ・学科やコースの特徴はどのようなものか。
  - ・専門的な授業はどれくらいあるのか。
  - ・授業の雰囲気や進み方は中学と違うのか。
- <取得できる資格について>
  - ・実際にどのような資格を取得しているのか。
  - ・資格をもっていると本当に就職に役に立つのか。
- <高校生活の様子や雰囲気について>
  - ・先輩、後輩の関係はどうか。クラスの雰囲気はどうか。
  - ・学校行事など中学校との違いはどうか。
- <通学時間や通学方法について>
  - ・実際に家を出る時間、学校に着く時間はどのくらいか。
- <その他>
  - ・その高校を選んだ理由は何か。
  - ・その高校に入学してよかったことは何か。

A子が考えた質問内容は資料4の通りである。高校選択の基準として設定した「学習内容」、「取得できる資格」、「卒業後の進路状況」について、自分の希望する仕事や就職とも関連づけて質問をすることができ、高校の特色や学科の学習内容を知ろうとする姿勢がうかがえた。

資料4: A子の考えた質問(一部抜粋)

◆志願高校決定に向けて2 高校生への質問を考えよう	
氏名	
現在の進路希望	高校名 学科名
第一希望	群馬県立 商業高校 商業科
第二希望	立 高校 普通科
◇自分の高校選択の基準に照らし合わせて、実際にその高校に通う高校生にきいてみたい質問事項をまとめよう。(質問はできるだけ具体的に)	
基準1	項目: 学習内容
質問内容	・授業の進み方はほやいのか。 ・授業の雰囲気はどうか。 ・商業科目は実際どのくらい難しいのか。
基準2	項目: 取得できる資格
質問内容	・資格を取得するのは難しいのか? ・取得するのにどのくらい勉強する? ・どんな資格をとっておくと役に立つのか?

以上のことから多くの生徒が、希望する高校についてより詳しく情報収集しようとする意欲が高まったと考えられる。この要因としては、高校選択の基準を設定したことにより、どんな点について情報収集が必要かを明らかにできたことがあげられる。さらに、高校生に質問するという視点から考えたことで、実際に自分が通学したり、授業を受けたりするといった具体性がもてたことも要

因の一つとして考えられる。

また、作成したアンケートは「学習内容」「学校生活の様子」「部活動・生徒会」「資格等の取得」「卒業後の進路」「通学方法/時間」に加え、「自校のセールスポイント」や「入学前のイメージとの違い」などの質問項目を中心にしたものとなった。

(3) 収集した情報を高校選択の基準をもとに整理することによって、高校や学科についての理解が深められたか。(見通し3)

#### ア 実践の概要

情報収集の期間を2週間設けた後、学級活動「高校生の声に学ぼう2」を行った。クラス全体で収集した「高校生の声」111人分のアンケート用紙を高校別に分類し、自分の第一、第二希望に合わせて高校情報を拾い上げ整理した。高校選択の基準としてあげた観点を中心に、どの情報が自分にとって必要で価値のあるものかを考えて選択し、まとめていった。

#### イ 結果と考察

アンケート結果は、協力してくれた高校生のほとんどが、自分の経験をもとに真面目に、丁寧に回答してくれていたこともあり、中学生がそれぞれの高校の特色をつかむのに大変有効な情報となった。(資料5)

### 資料5 「高校生の声」の一部

6. 授業の様子や学習内容について  
※授業の雰囲気・進み方・学習内容の難易度・科やコースの特徴・定期テストなど中学校との違いは？

- 商業科は、小情報別玉里、簿記、IT-プロなど商業の勉強もまんまんなく勉強していく。
- パソコンを使う授業がたくさんある。
- テストは中学と違って、中間テストと期末テストがある。
- そんな難しい勉強はないよ。

これらの「高校生の声」はこれまでのパンフレットによる高校調べや体験入学と違い、生の高校生の意見や考え方に触れる貴重な機会となり、生徒全員が情報の整理活動に大変意欲的に取り組んでいた。中には初めて知る情報に驚きの声を上げる生徒や、友人と積極的に情報交換をする生徒も見られた。授業後のアンケート調査の結果では、31人の生徒が「これまでよりも高校や学科についての理解が深まった」と答えるなど「高校生の声」を通しての情報整理活動は大きな成果をあげることができたといえる。また、詳しい高校情報を得たことで、進路決定に向けての意欲を高めた生徒

も見られた。生徒のおもな感想は資料6の通りである。

### 資料6:情報整理後の生徒の感想

- ・パンフレットで見るとよりも実際に高校生の声を聞いた方が高校のことがわかりやすかった。
- ・体験入学ではわからなかった、授業の様子や学校生活を知ることができたのでとても参考になった。
- ・とてもよい情報が得られ、自分の目指している高校への理解が深まったような気がする。
- ・授業が思っていたよりも大変だということがわかった。特に学習内容は難易度が高く、英語の進みが速いなど、参考になることが多かった。
- ・校則がしっかりしていて、真面目な生徒が多いことがわかり、入学したい気持ちが強くなった。
- ・通学がおもったより大変だということがわかった。

A子はワークシートに資料7のようにB商業高校とC普通高校の情報をまとめた。これらの情報は初めて得たものだけではないが、自分の希望を実現させるという視点で、高校や学科を改めて認識し直すきっかけとなり、高校理解を深めることができたと考えられる。授業後の感想は、「高校生の意見を見て、思っていたことと違うことが多く、学科についての理解も深まったと思う」というものであった。

### 資料7 A子のまとめた「高校生の声」(一部抜粋)

◆志願高校決定に向けて3 「高校生の声」情報整理シート

氏名 \_\_\_\_\_

※「高校生の声」を通して、「今までよりも詳しくわかったこと」や「新たにわかったこと」を整理しよう

【選択基準の項目に合わせた情報】

高校名/学科名(第一希望)	高校名/学科名(第二希望)
商業高校 商業科	高校 普通科

◇項目 学習内容等について

・商業科目は特に真剣に取り組まないと検定に合格できない。 ・思った以上に勉強に追いつかない。 ・パソコンを使う授業がたくさんある。 ・会計科は簿記が中心なので電卓を使うことが多い。	・授業の難易度はいろいろだけど中学の内容がわかればそんなに難しくはない。 ・自分で系やコース、教科を選べる。 ・数学・英語は基礎、標準発展にわかれている。 ・35点以下は赤点。3学期の通知票に1がつくと進級できない。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 整理した情報を比較・検討することによって、より深められた高校理解にもとづいて志願理由を明確化することができたか。(見通し4)

#### ア 実践の概要

学級活動「最終的な進路選択に向けて」では、ワークシート②(資料8)を活用して、これまでに整理した高校や学科についての情報を観点ごとに比較・検討しながら、志願する高校を絞り込む活動を行った。ワークシート①での12の観点ごと

に、希望校の満足度や可能性を5段階評価し、あらかじめ高校選択の基準として重視する度合いに応じて設定した1～5倍までの倍率をかけて合計点を算出した。この結果をもとに志願校を決定し、その志願理由をまとめた。

### 資料8 ワークシート②

情報活用シート			
◇高校情報を比較・検討しよう。			
項目	倍率	第一希望	第二希望
①学校名/学科名	×		
②校風・教育方針	×		
③学習内容	×		
④保護者の考え	×		
合計点			

### イ 結果と考察

ワークシート②を活用した結果、第一希望を変更した生徒は6人、変更しなかった生徒は30人であったが、必ずしも合計点の高い高校を第一希望とした生徒だけではなかった。これは数値にとらわれず、何を重視して選択するかという基準にもとづいて比較・検討することができた結果と考えられる。また、それぞれが書いた志願理由について聞いたところ、志願先の変更の有無にかかわらず、「これまでの志願理由よりも明確になったと思う」と答えた生徒が28人いた。その理由として、「選択の基準がはっきりしたので書きやすかったから」、「その高校が自分にあることがよくわかったから」などをあげていた。これは高校の特色や学科の学習内容についてより深く理解して高校を選択した結果であると考えられる。

A子は、ワークシート③の観点の倍率を、「卒業後の進路状況」を5倍、「取得できる資格」を4倍、「学習内容」を3倍に設定して合計点数を出した。その結果、合計点で上回ったB商業高校を志願校とした。志願理由は資料9の通りで、「学校が資格取得に熱心であること」、「就職率がよく、自分の希望に応じた職業が選べること」、「校則がしっかりしていて真面目な生徒が多いこと」をあげた。これは「先輩の声」を中心にした情報処理活動を通して、自分の将来や希望に合わせた高校選択をするという視点で、高校理解を深めていくことができたからであると考えられる。

### 資料9 A子の書いた志願理由

◇志願理由をまとめよう！	
現在の志願先は……	群馬県立 商業高等学校
この校風がよく、真面目な生徒が多く充実した高校生活が送れると思ったからです。また、資格取得に大変熱心で先生たちも親身になってくれると先輩から聞いたからです。あと就職先も良く自分の希望に応じた職業が選べると聞いたからです。	

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

生徒の志願理由を明確化するために、学級活動に「高校生の声」を収集、整理、活用するという情報処理活動を取り入れたことは効果的であったと考えられる。その要因としては、第一に、情報収集の準備段階で、自分の高校選択の基準を設定し情報収集活動を行ったことがあげられる。はっきりとした基準をもつことで、自分の希望をかなえるためにはどのような観点で高校理解を進めていけばよいかを生徒自身が理解することにつながり、結果として進路選択への意欲を向上させることができたと考える。第二に、現役の高校生から収集した高校や学科についての意見や考え、経験などは、生徒が希望する高校への理解を深めたり広げたりする上で、貴重な情報源となったことがあげられる。パンフレットや体験入学などから得られる情報に加えて、高校生の目を通してその高校や学科をとらえることができ、より身近なものとして希望校を比較・検討することが可能となった。これらのことから、生徒は高校への志願理由を明確化することができたと考える。

### 2 今後の課題

本実践は、希望する高校調べや体験入学などが一通り終わった9月中旬以降のものであり、最終的な進路選択までの時間を考えると、時期がやや遅かったように思われる。適切な高校選択のためには、高校情報を比較・検討する時間を十分に確保するとより効果的であると考えられる。実施時期を早期に設定するなど、学習計画の中に適切に位置づけていくことが今後の課題である。

#### <参考文献>

- ・片野 智治 著 『エンカウンターで進路指導が変わる』 図書文化(2001)

(担当指導主事 中西 信之)

